

【相談内容】

No102.橋梁の補修設計・補修工事について

- 当該橋梁は点検の結果、RC床版桁下面に漏水痕を伴う、うきや剥離・鉄骨露出が見られ、損傷の進行が危惧されてる。
- 今後、補修設計・工事を実施するにあたり、効果的な対策等があれば助言を頂きたい。

【助言内容】

- 対象橋梁の補修（更新）等を立案する上で、補修（更新）後に求める性能（耐荷性能、耐久性能）を整理することが重要
例えば、
耐荷性能：「現在のまま車両を通行させるのか」、「歩行者のみを考えているのか」
耐久性能：「あと何年利用するのか」など
- 補修（補強含む）については、3つの性能「耐荷性能」、「耐久性能（耐荷性能の前提条件）」、「その他性能（フェールセーフなど）」のどの性能を“戻す”又は“アップする”という視点で実施するものであるため、「形」を戻すのではなく、「性能」を戻すことが効率的な対策となる。
→補修（更新）設計を行う上で、損傷原因（メカニズム）を究明することが重要
- 損傷要因の排除が不十分なまま、補修（更新）をしたとしても再劣化（新たな損傷）を招く可能性が考えられる。

（次頁に続く）

【助言内容】

- よって、補修工法の選定にあたっては、損傷原因（メカニズム）、要求性能に応じた対策工法を経済性、環境性及び施工性を考慮し適切に決定することが大切
（橋梁コンクリート部材の補修設計・施工の手引き（H30年12月 コンクリート構造物維持管理技術研究会）P 45～136、参考）

【点検結果について】

- デッキプレートの全体的な腐食及び一部欠損が確認されているが、いずれも下面からの確認であり、横断歩道橋などの損傷事例などからも下面からの外観だけでは正確な確認が出来ていない場合もあるため、路面状況の変化についても注意し、必要に応じて舗装下の確認について検討することが望ましい。